

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスtette		
○保護者評価実施期間	2025年2月1日		2025年2月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	2025年2月10日		2025年2月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもが遊びを自ら選択し、活動できること。子どもの好きなものや状況に応じて個別・集団活動を組み合わせている。	・子どもの「やりたい」気持ちを大切に活動を決めている。	・遊びの幅を広げられるように、遊具や玩具といったハード面の他に、それを使った様々な遊び方を提供できるようにソフト面も充実させられるようにしたい。
2	・職員間で個別支援計画を共有し、支援に関わる職員が計画に沿って支援に当たっている。	・子どもの様子は支援前や支援後のミーティングで共有している。それ以外でも気になったことは随時報告し合い、職員同士のコミュニケーションを多く持つようにしている。	
3	・生活スキルや道徳的なことへの支援を主としている。(学習面<生活面) ・身体を動かせるスペース(庭)	・日常で起こる出来事を日々少しずつ積み上げられるように、小さなことでも繰り返し声掛け・伝えていくようにしている。 ・身体を動かすことが好きな子どもが多いので、天気の良い日は外遊びを積極的に取り入れている。	・職員のスキルアップ、情報の収集 ・職員の得手・不得手を考慮しての配置だけでなく、様々なことに対応できるようにスキルアップを図る。
4	・職員間の連携が取れていて、チームでの支援を行っている。	・子どもの得手・不得手や、対応する職員の得手・不得手も考慮し、職員個人での対応でなくチームで流動的に動くようにしている。	・子どもの情報を知り、その子に適した知識を学ぶ。 ・遊びの幅を広げられるような遊具等の設置
5	・個々に過ごせる環境や時間の設定。 全員が同じプログラムを行う時間より、個々に過ごせる時間を多く取り入れている。その子どもの動きを見て良い点や困りごと、特性を知ることができる。	・日々の過ごし方の積み重ねで子どもの特性への理解を深めている。	
6	・子ども達の支援につながる様々な研修や放課後等デイサービス協議会へ参加し、自己研鑽に努めている。	・研修に行った職員は事業所で他の職員に向けて振り返り研修を行っている。(研修受講者の振り返りと、他職員との情報共有)	・事業所内研修のための時間を設ける。
7	・子どもの様子は送迎時やシステムを利用した記録を通して細かに保護者と共有している。	・保護者との連絡を密に取るようにしている。 ・保護者から相談がある時は随時連絡を受け、素早い対応を心がけている。	・システムの活用(HUGアプリへの移行)

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・放課後等デイサービスから障害福祉サービスへの移行が未経験である。	・対象者がこれまでいなかった。	・これから障害福祉サービスへの移行準備が始まるので、次の事業所への情報の提供を行っていく。
2	・子どもに関わる情報や支援は全職員で共有できていると思うが、運営に関すること(契約や体制、協議会への参加、他施設との連携等)については正規職員とパート職員では理解に違いがある。	・すべてのミーティングに全職員が参加できない。情報の提供不足。	・ミーティングに参加できなかった職員にも情報を共有できるツールの利用や伝達方法を改める。 ・気になる点はお互いにすぐに伝え合う。
3	・父母会や家族対象のプログラムの不十分さ ・地域との関わりの不足	・家族対象のプログラムを行っていない。 ・地域の方を招いたイベント等を行っていない。	・家族対象のプログラムや地域の方を交えたイベントの開催の検討。 ・周辺の散歩や公園遊びといった日々の活動時のあいさつや会話等を通して町内や地域の方に周知していただく。
4	・土曜日の営業を行っていない。	・人員配置	